

## (県協働部署用) 協働事業評価・報告書

事業名	重度障害者の訪問型生涯学習支援（訪問カレッジ enjoy かながわ）
県協働部署名	神奈川県教育委員会教育局生涯学習部生涯学習課
団体名	特定非営利活動法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会
事業期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

## 1 個別事業ごとの実施結果

事業 1	重度障害者の訪問型生涯学習支援（訪問カレッジ enjoy かながわ）
(1) 実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	<p>①日々の実践を記録にまとめ共有することにより、支援員の情報交換がスムーズに行うことができ、支援に生かすことができただけでなく、記録を共有する中で教材研究が進み、指導方法の工夫をしていた。また、ICT 支援アドバイザーを招いた打合せ会を行ったことにより、視線入力の学びが実現し、学びのツールを増やすことができたことは、カレッジ生の学びの可能性を広げることができた。</p> <p>②持続可能な事業とするために、大学や地域のサークル活動との協力体制を築くことによる地域との連携を図った取組を行っていることは評価できる。</p> <p>大学のボランティアサークルと共同して作成した動画「ボランティア初めての訪問」は、ボランティアに参加する学生だけでなく、訪問を受けるカレッジ生にも活動を推進するうえで効果的なツールとなったほか、学習支援ボランティア講座を開催し、人材育成にも努めている。</p> <p>また、生涯学習課の紹介により、県立歴史博物館や県立図書館と連携して制作した教材動画は、カレッジ生の学びに対する興味関心を高める効果があり、カレッジ生たちは自ら疑問を抱き、学芸員に質問するなど、次の学習段階に進むきっかけになっている。当課では、今後も団体のニーズを把握しながら、県立社会教育施設との連携について支援を行っていききたい。</p> <p>③重度障害者の学びの必要性を伝える広報・理解啓発を進めており、令和 6 年 10 月に開催された文部科学省委託の「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」第 3 回学びの実り文化祭では、カレッジ生と家族がシンポジストとして参加し、「わたしとカレッジ」と題したプレゼンテーションを行い、数多くの参加者から支持を受けていた。</p> <p>また、発達障害学会の実行員会シンポジウムで、訪問型生涯学習支援の報告を行い、その内容が「月間社会教育」2 月号に掲載されたほか、障害者週間には県内 4 社会福祉協議会合同広告に、私たちの「学ぶことは生きること」のキャッチフレーズとカレッジの活動写真 2 枚を掲載し、「重度障害者の訪問型生涯学習支援」の必要性を訴えるなど、積極的な活動を行っている。</p>
(2) 目標の達成状況	<p>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 (100%) ※1 年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。</p> <p>イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 当初の計画や目標を十分に達成できたと考える。また、事業を進める中で、より発展した活動にも取り組んでいた。</p> <p>ウ) この事業の課題と対応策 ①障害の重い方の学びの充実と、それを支える学習支援員へのサポート体制の充実。 カレッジ生一人ひとりの学びのニーズに合わせた学びの機会の創出のために、学習支援員の学びの場や、日頃の個々の活動について協議し、相談できる場を設定することが大切だと考える。また、学習支援ボランティア講座の開催により、支援員の育成をし、カレッジ生、学習支援員ともに楽しんで活動に参加でき、持続可能な事業とすることが必要と考える。 ②特別支援学校や現在の社会教育資源との連携の在り方の模索</p>

	<p>特別支援学校や社会教育資源（県立施設・公民館など）との連携をすることにより、事業の推進と、周知につながる。連携先の特徴や強みを生かした活動内容を工夫し、連携先を広げる必要がある。</p> <p>③制度化に向けた動向に関心を持つ。</p> <p>社会教育に障害のある方が参画できるよう、博物館法などの制度が改正されている。厚生労働省から生涯学習に関するモデル事業の募集もあり、生活介護事業者向けではあるが、特別支援学校の元教員等の活用が想定されている。今後も国の動きに注視し、障害の重い方の生涯学習の機会が色々な場で展開されるように支援していく必要がある。</p>
--	--

（注）個別事業が2つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

## 2 協働事業を継続する上での課題とその対応策

協働事業は生涯学習社会の形成・共生社会づくりという共通の目的に向かい、お互いの強みを生かして、協力、連携していくものと考え。よりよい事業を展開できるように、4月当初に、団体の活動目標や活動計画を相談し、協議をすることで、具現化していく必要がある。事業を進めるうえで、定期的に連絡を取り、情報共有することで、課題と感じていることを共有し、一緒に解決に向かうように努めていく。特に団体が事業を進める上で課題となることに対して、行政だからできることの強みを生かして協働して事業を進めていきたい。

## 3 負担金事業終了後の当該協働事業の見通し

負担金事業の期間中に特別支援学校や社会教育資源（県立施設・公民館など）との連携先とつなぐ支援をし、連携先の特徴や強みを生かした様々な連携のバリエーションを生み出し、負担金終了後も持続可能な連携関係を築けるよう努めたい。

## 4 協働事業の評価 （はい・いいえ・どちらともいえない、に該当するものを残してください）

<b>1 協働事業の成果</b>		
(1)	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	はい
(2)	事業の受益者の満足を得ることができたと思いますか。	はい
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを記入してください。 団体と定期的に連絡を取り合い、事業の進捗状況を確認する中で、カレッジ生家族へのアンケート結果の様子を聞き、好意的な感想が多く寄せられ、全員が次年度の継続を希望していることを確認できた。	
(4)	協働事業の成果だと思ふことがあれば記入してください。 所管する施設との連携を支援することにより、県立図書館や、県立歴史博物館の活用の幅が広がり、それぞれの施設の周知につながった。	
<b>2 協働事業の協議の状況</b>		
<企画段階>		
(1)	事業計画や目標の立て方について、県と団体とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	はい
(2)	県と団体とは対等な立場で協議を行いましたか。	はい
(3)	締結した協定書は事業を効果的に実施する上で適切でしたか。	はい
<実施段階>		
(1)	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、県と団体とは節目ごとにメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	はい
(2)	県（団体）の置かれている状況や立場についての理解に努めましたか。	はい
(3)	必要な情報を県（団体）と共有することができましたか。	はい
(4)	協議についての課題を記入してください。	
<b>3 協働事業の役割分担</b>		
(1)	県（団体）との役割分担は適切でしたか。	はい
(2)	協働事業の実施にあたって、あらかじめ定められた役割を果たすことができましたか。	はい

(3)	役割分担についての課題があると思われる場合は、記入してください。	
<b>4 協働事業全体を通しての評価</b>		
(1)	全体として、県と団体とは対等な立場で協働ができましたか。	はい
(2)	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	はい
(3)	協働事業全体を通じて気づいた点があれば記入してください。 障害者の生涯学習支援は、学びを支援すると同時に、社会参加や自己実現にむけた支援を行うことでもある。 協働事業におけるノウハウを積み重ね、多様な学びの場の創出を支援し、共生社会、生涯学習社会の推進に寄与していきたい。	
<b>5 社会的認知の獲得</b>		
(1)	取り組んでいる事業や成果について社会に知らせましたか。	どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に何をい行いどんな反応があったか（無かったのか）を記入してください。	
(3)	今後に向けた課題を記入してください。	
<b>6 新たなネットワークの獲得</b>		
(1)	この事業を実施する上で新たなネットワークをつくる（広げる）必要性がありましたか。	はい
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）努力を団体と共にしましたか。	どちらともいえない
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、どんな努力をしたオンかを記入してください。	
(4)	(2)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）ことができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
(5)	(4)で「はい」を選んだ場合、具体的に関係（連携）ができた機関の名称を記入してください。	
<b>7 行政の施策等への影響</b>		
(1)	協働事業の実施により、県職員のボランティア団体等に対する認識や行政の施策等に影響を与えることができましたか。（協働部署にあっては、影響を与えられたかどうかを回答してください。）	はい
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に変化や影響があったと思われることがあれば記入してください。 博物館法の改正にともない、県立歴史博物館としても障害のある方の利用について模索していたところ、協働事業により、利用方法について団体と一緒に考える機会を設けることができた。	
<b>8 費用対効果</b>		
(1)	事業の効果から見て、要したコストは適切だと思いましたか。	はい
(2)	(1)で「いいえ」を選んだ場合、その理由と、今後の対応策を記入してください。	